

5) 締切堰堤

- ①建設年代 明治41年(1908年)竣工
- ②施設概要 間知石練積堰堤
堤長: 30.5m、堤頂幅: 1.5m、堤高: 7.6m
- ③特徴 砂防堰堤上に増嵩した先駆的なアーチ状石積堰堤

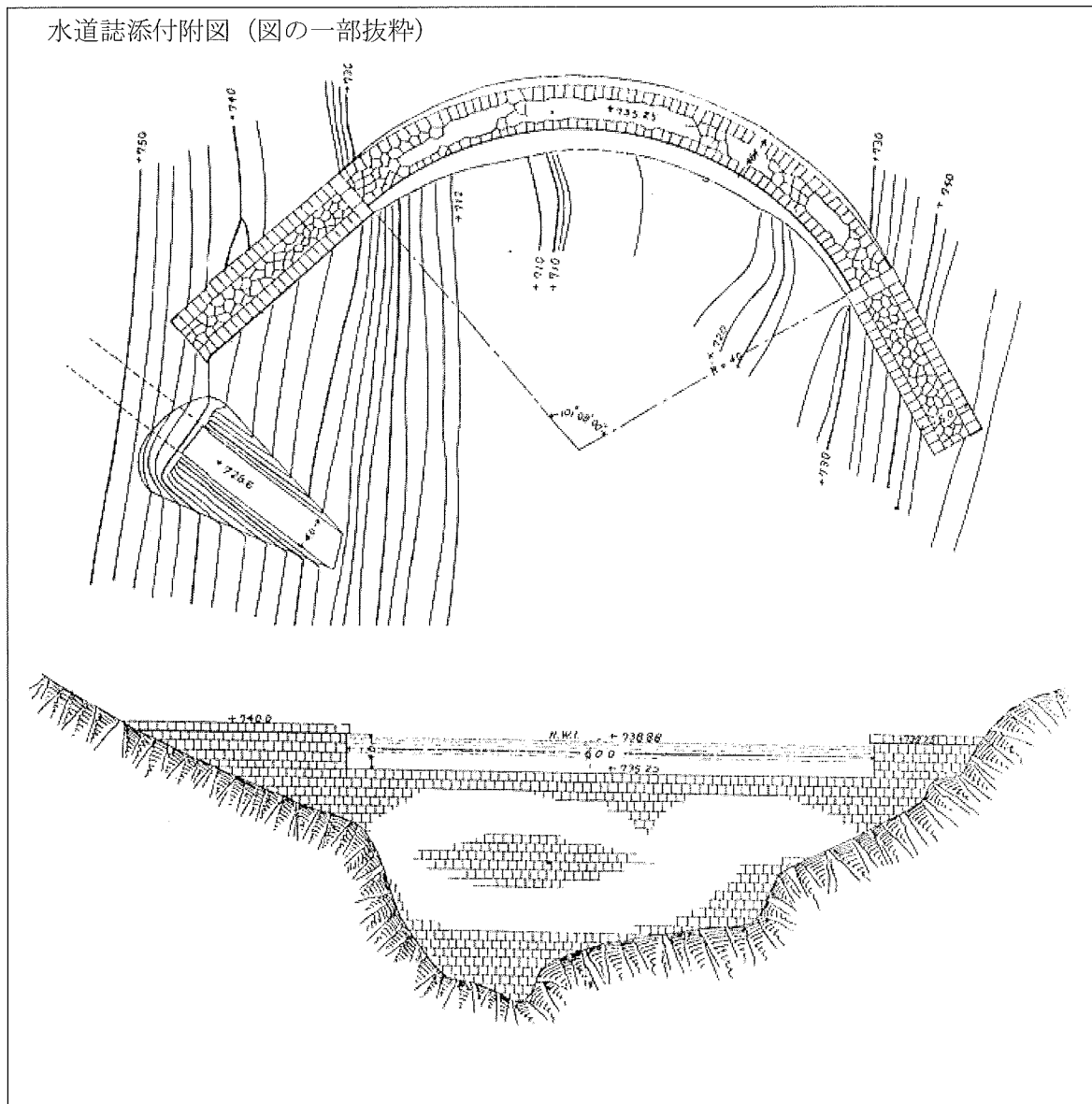


図3-7 締切堰堤

締切堰堤は、神戸市水道誌では『断流堤』という名称で隧道放水路の末尾に記載されており、分水堰堤隧道を流れてきた渓流水が上流側に逆流することを防ぐことを目的に建設されている(図3-7参照)。

元々この位置には、布引ダムと同時期に建設された砂防堰堤(水道誌添付附図の第一砂防堰堤: 図3-8、9参照)が建設されていた。しかし、上流側の土砂堆積に対応するため、砂防堰堤の上部にアーチ部を嵩上げして、現在の締切堰堤が建設されていたと思われる。前述の附図では布積みとなっているが、実際は谷積みである。

また、明治の時点では両側が中央部に比べて 1.2m 高くなっているが、上流に更なる土砂が堆積したため、時期は特定できないが中央部が再度嵩上げされた。その結果、現在では堤高が 8.5m、堤頂幅が 1.4m となっている。

このように締切堰堤は、分水堰堤と放水路に水を流しながら施工されており、かつ、洪水時の対応を考慮すると、最後に完成したものと推測される。

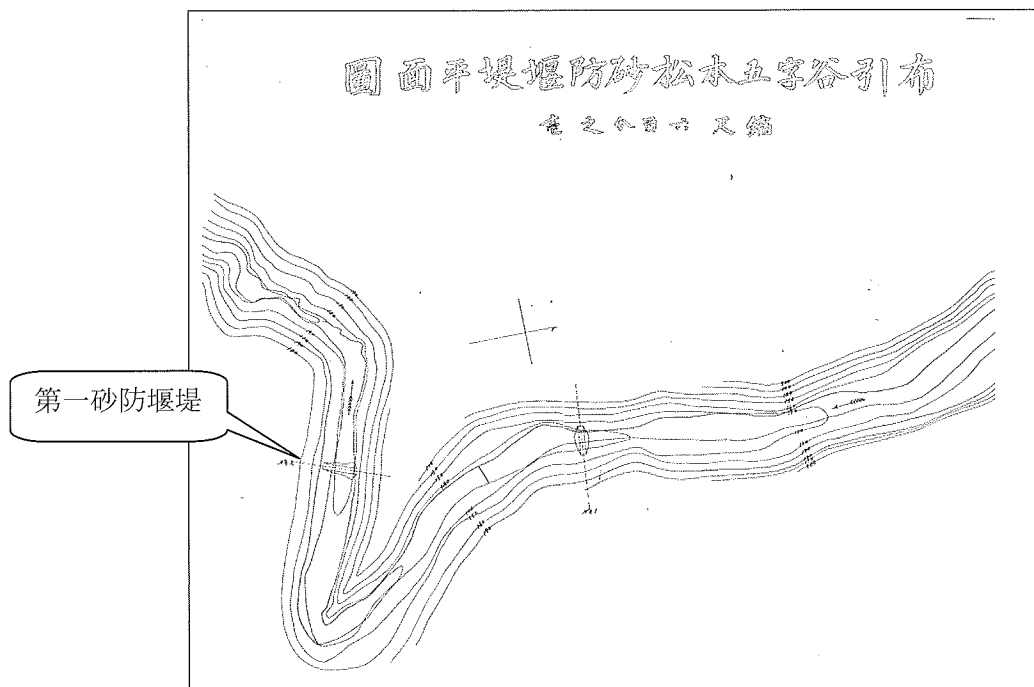


図 3-8 第一砂防堰堤平面図

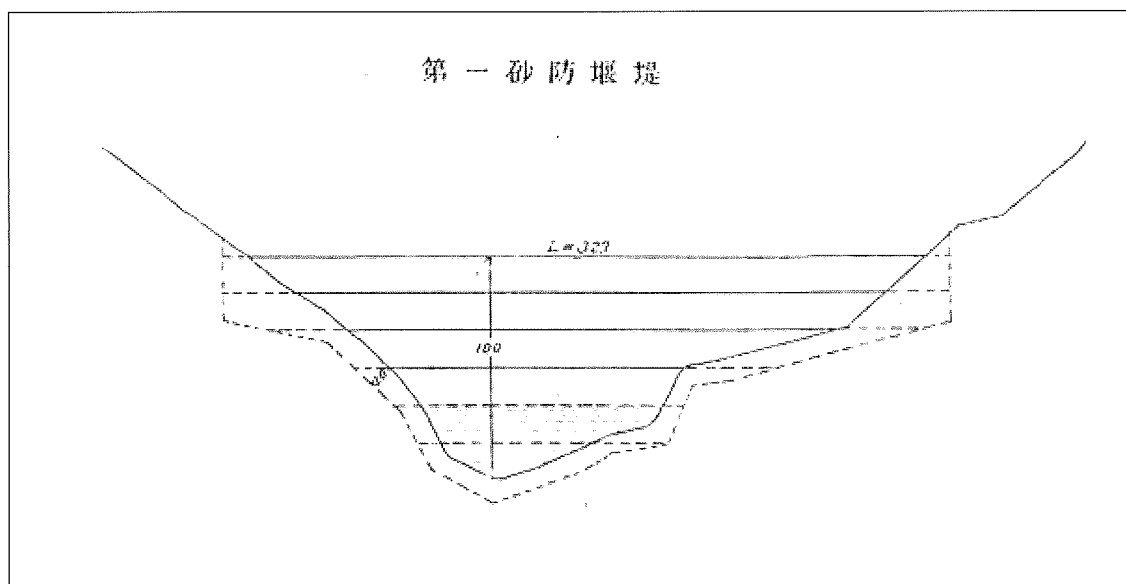


図 3-9 第一砂防堰堤断面図